

## 収穫期到来

関東甲信越地方の梅雨入りの平年値は6月7日ごろですが、この公民館だより作成時の17日になっても梅雨入りとなっていない。長期予報では梅雨明けは平年並みとのことです。短期間で多くの雨が降るのかもしれませんが。

今年のももやスモモの開花時期は遅かったのに、その後の気温が高かったので生育速度がどんどん進み、収穫時期は昨年並みになってしまいました。

梅雨入りが遅れ、雨が降り続く中での収穫作業となると、農家の方々にはたいへんだと思いますが、少しでも多くの果実が出荷できるようにがんばっていただきたいとねがっています。



## 神金子育てサロン

毎月第3火曜日に開催する「神金子育てサロン」が5月21日に2階和室で実施されました。

地区民生委員・主任児童委員の皆さんが、子育て中の親子が自由に参加して楽しめる場を提供し、仲間作りや情報交換を行ったり、先輩お母さんや保健師さんからの助言や相談を実施しています。



## 旧JA神金支所の地元活用

神金振興会事務局会議が6月6日に開催されました。その場において、事務局長から、旧JA神金支所を地元で活用することができるようになったと報告がありました。地元JA理事さんや市議員が連携し、JAと交渉した結果、神金地区区長会が借り受けることとなりました。

賃貸料については、神金財産区からの補助金を充当していく予定です。

今後は、スポーツ協会などの諸団体の会議等に活用していくことなどを念頭にしながら利用方法等については、振興会を中心に議論していくとのことです。



## 共選所開き・目合わせ



6月16日、昨年より1日早く大石早生の目合わせが第1共選所にて開催され多くの生産者が参加しました。

生産部長からは、「農機具での事故も発生しているようなので、十分に気をつけ農機具を利用していただきたい。出荷作業は、一連の果樹栽培の仕上げとなるので、最後までがんばっていただきたい。」と挨拶がありました。

その後、指導員から出荷要項について説明があり、生産者が確認していました。



# 神金の歴史

地元の歴史研究家でもある故飯島卓郎氏が、神金小学校PTA会報「ふもと」に執筆し寄稿した「神金の歴史」をシリーズで紹介します。

## 新青梅街道 六

安田義定は北巨摩郡若神子に生まれたという諸説があるが定かでない。長寛勘文の事件で三枝氏が滅亡した後を継ぎ、先ず下小田原に館を構え次第に勢力を増すごとに南下して小原に移り、峡東一帯を領したものと思う。下小田原の福蔵院の地が義定の旧址であるという伝承があるが、これを証する文献は残っていない。しかし、証拠はないが証拠づける物証は多く現存している。先ず、塩山市の史跡に指定されている「原の京鍛冶遺構」であるが、これは関東では数も少なく貴重なものといわれている。下小田原に三ヶ所ある。これは明らかに武器具を鍛造したものであり、然も時代は平安時代のものであるので、これこそ甲斐源氏しかなく必然的に伝承の安田義定がここに館を置き武力を蓄え、平家討伐を志したものと思う。

それから、現在公簿上に記載されている地名であるが、勢力のある武将がいたことが想像されるものがある。福蔵院、金井加里神社の丘陵一帯を金剛銭という。寺の前方を前田、北方を北の京、東北高台を高地が京、南方丘の下を風呂面と称しているが、風呂とは金を精選したところであり、今も広い川幅で豊かな水が流れている。前方の高台に白峰山常勝寺（正徳年間には金井加里神社の別当をしていた記録がある）があった。今は廃寺になっているが寺跡が残されている。この辺り一帯を寺畑という。その西方を的場というが弓の練習の場であり、馬場の原は国道の南一帯にあり馬の調練をした処である。

上小田原との境から浜松神明社の参道までを村東というが小田原の一部であったと思う。浜松神明社の裏山は愛宕山といい福蔵院の正面にあり、愛宕権現を祀り館の守護と武運長久を祈願したのである。愛宕山の山裾で浜松神明社の西に権現堂があり、上手林の矢崎春雄氏の祖先がお祭りには旗を立て燈籠に献燈して奉祀したそうである。今は絶えて堂跡のみが残っている。

\*次ページに続く

# 神金の歴史

館の角にある双子山の内沢尻山を砦とし燈火台としても利用した。又館を守るため先鋒と後詰をおいて万一に備えた。先鋒は踊石に置き、勝軍地蔵尊の社を中心に、上條はお堂を中心に二土戸それぞれに中村の姓を名乗らせ備えた。上條は現在は十三戸だが、踊石の中村は数度の水害で耕地を失い北海道やブラジルに移住して、現在は十二戸が残っている。踊石の勝軍地蔵は文字通り軍に勝つために祀った神である。平安の後期、源氏の潜伏の時代に、甲斐源氏に流行した軍神であった。武田信義の長子一條忠頼も、今の甲府城が一條小山と称した昔、ここに勝軍地蔵尊を祀り武運長久を祈ったものである。後に甲府城築城の折、愛宕神社に合祀したと伝えられているが、実際は隣にある福蔵院住職清雲栄玄師が兼務して甲府成田山に御本体は祀られているそうである。

上條の中村姓の人々は福蔵院の壇信徒になっているが、今は踊石との関わりは少ないが、昔は密接な関係であった。福蔵院の仁王門をくぐり石段を登った中段の左右に二体の立派な石仏がある。高さ一二〇糎、巾九〇糎あり、宝暦五年（一七五五）踊石村が寄進したと刻まれている。当時高遠の石工が刻んだものと思うが、篤信の人が大勢いたものと思われる。今はお参りに来る人は少ないようである。

踊石村では後に武田家に仕え幾度か戦場に出陣したり、黒川金山衆として活躍したものである。故中村常福氏宅には武田家から拝領した感状が現存している。塩山市にも数少ない貴重な史料である。

又、上條は僅か二土戸余りの小部落であったが下小田原村の枝村として名主、長百姓を置き、江戸末期まで一行政区として独立していた。これは珍しい例であり、中村太丸氏宅に古文書も多数残されている。尚浅間神社を祀り権現堂を建て祭祀も他にないものを持っている。市指定の木食白道上人の一本百観音も奉祀されているお堂も、小さい部落には過ぎたものである。

上條も踊石も共に昔の格式を保ち、由緒を忘れず祖先を重んじ、部落の誇りとして守り続けたものと思う。。



福蔵院